

放送大学創立 30 周年記念講演会

政治は再生するか

2013 年 10 月 5 日(土)

会場 松江市・スティックビル 5階 交流ホール

講師 御厨 貴(放送大学教授)

今日は、創立 30 周年記念ということですが、放送大学が出来た頃から日本の政治がどのように変わって来たのかの政治がどのように変わって来たのか。私が専攻しているのは近代日本の政治外交史という分野です。



さあ、その日本政治外交史という時期区分は、私は幕末維新期、つまり 1868 年に明治維新になりますが、そこから現在までです。その中で、どこで区切りをつけるかという、今でもそれは 1945 年です。つまり日本の敗戦で、その前と後で、戦前戦後という言い方をします。この言い方には皆さんの多くはあまり違和感をお持ちにならないと思います。

しかし、私が今教えている若い学生諸君はもう 1990 年代生まれです。そういう学生たちと日本の政治外交史を議論するのはかなり骨が折れる。彼らが意識しているのは、最初の安倍さんから 1 年ごとに変わる総理大臣の時代が、彼らにとっての政治の現イメージです。

そのことを政治が劣化していると言ったところで、彼らには日本として、政治がまあ取り組まれているのであれば、それをどうして先生たちの世代、そこまで政治が劣化していると言うのが全くわからない。だから、皆さんも注意して欲しいのですが、平成生まれの人たちを僕は平成君と呼びます。平成君と話をする時は、以前の昭和については余程注意をしないと、多分同じことを話してもまったく受け止め方が違う。かなり深刻な問題です。

今、戦後という話をしましたが、戦後が終わるということは 1955 年に当時の生活白書が最初に戦後は終わったと表現した。つまり、復興の時代は終わったのだからこれからは新しい時代だと。次に戦後が使われたのは佐藤内閣です。佐藤さんは沖縄の返還なくして戦後は終わらないと言った。それに続いて戦後を終わらせようと明確に言ったのは中曽根さんだった。これには、その後ろに憲法問題があった。憲法改正をやらない限り戦後は終わらないという認識があった。これが、その後も続いて行くことになる。そして、戦後を終わらせよう、あるいは戦後をもう少し短く言うならば、占領時代を終わらせようという。

さらに戦後を終わらせようと思わないで来るが、それをはっきり明言したのは、今の安倍さんです。安倍さんは終わらなかった理由が判っている。それは価値の問題とと思っている。戦後的価値あるいは占領憲法を認めてしまったこの国のだらしなさ。それを何とかしたいと思っている。

現在の政権で安倍さんが価値の問題、憲法改正につながるイデオロギーの問題、さらにはいわゆる外交安全保障の問題について、かなり今までの日本のやり方を変えたいと思っているのは非常にはっきりしている。それをいつ具体的な政治課題にあげるかどうかは、もう少しあとでお話しますが、そういう気持ちでいる。そのことは参議院選挙の前から、つまり衆議院選挙で彼が政権を取ってからこの半年間、かなりはっきりしている。

戦前の区切りのつけ方は非常に簡単で、戦前は帝国主義戦争の時代ですから戦争で区切りがつく。日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、そしてその後は 15 年戦争。これは政治経済社会、全部がそうで

す。

ところが戦後は戦争がない。戦後は帝国主義戦争が終わったことにより戦争はないが、逆に常に戦時体制とか戦争の時代であるとかを言うと、常に第二次世界大戦が思い出される。だからお判りになるとと思いますが、アジアとりわけ中国や朝鮮半島全体と言ってもいいと思いますが、ここでは常にその意味で第二次大戦カードです。日米戦争カード、日中戦争カードを持っている。これは賠償が終わろうが終わるまいが全然変わらない。ところが戦後日本は四つの島に戻った瞬間に、それ以前それ以後その後は実は何があってもそこに戻って行く、そういう雰囲気になっている。だから戦後は終わらない。

賠償問題はもう完了しているが、確かにアジアに関して言うならば、中国や韓国以外のアジアへの賠償はかなり日本の場合進めました。60年代末、70年代から80年代にかけて海外への日本の企業の進出が始まり、どんどん日本人が外に出て行った。その時の日本人の態度は決してよくなかった。彼らが現地へ行った時に現地への配慮が無かった。戦後史、戦中史を学んでないわけですから当然で、これがどんどん広がっているわけです。こういうことがあってそれで戦後が終わっていない。

認識のギャップがあることがわかった。したがってその辺から歴史教科書の問題が起きて、70年代、80年代にもう一度戦争責任、場合によっては天皇の戦争責任の問題が蒸し返されてきた。これを日本の政府はあまり重視しなかった。この国は本当に反省していないというところが常にある。その問題と絡まって出てくるのが、あの靖国の参拝問題とA級戦犯を合祀してしまったという問題を、どう見るかという問題につながってくる。この問題はかなり大きな問題である。それをその後、今言ったような形で覆すことになるとこれは戦後体制そのものに大きな亀裂を生じさせることになる。今の政治というのは正にそこに差し掛かってきている。

安倍さんは確かにアベノミクスで上手くやりました。これは安倍さんの戦略的勝利だと判断します。誰もが安倍さんが経済問題で勝負をするとは思わなかった。それを初めて安倍さんは今回正面に据えた。これは多くの人にとって驚きでありました。これは与野党を通じて、経済の湿り具合からなんとか脱したいという空気を、安倍さんは吸い取った。それを自由民主党の大勝利のつなげて行ったということになろうかと思います。

政治は再生という時に考えないといけないのは、この安倍さんのやり方にいくつかのあり方が本当に政治の再生につながるのか、ということです。ではそのアベノミクスが何時まで続くのか、みんな議論していて、上手く行ってもそう続かないだろう。しかもその手法は実に小泉純一郎とそっくりで、つまり小泉純一郎という人も、あつというようなことを最初に言う。このやり方、これは小泉さんのやり方と極めて似ている。こんどもそれと非常に良く似ている。アベノミクスという舞台を作って、それに賛成か反対か言わせてしまった。もうこの舞台というのは変わりようがない。小泉効果と同じことを安倍さんがやったということで、これは勝利の方程式でいうとかなり現在のところは上手く行っている。

ただもう一方の問題を忘れてはいけない。常に安倍さんにはもう一つの、つまり本来的にはこれをやりたいという。何度も言いますが、価値の問題、イデオロギーの問題、あるいは対外主権の問題が常にあるわけです。

しかし、それが難しいところです。アベノミクスの問題というのは、やってみたら経済状況がコロコロ変わって失敗するかもしれない。しかし、こちら側の問題もある。イデオロギーの問題です。自民党は今、圧倒的な人数を持っている。

今、安倍さんが一番困っているのは、衆議院で300という数と、参議院でも勝ったことの二つです。昔、私が40代になったころに小沢一郎に会った時のこと、小沢一郎ははっきり言いました。小沢さんの政治改革はまだ終わっていないと思いますが、ただ彼が盛んに言っていたのは、この20年、政治が

悪くなったということは盛んに言っていました。とにかくアベノミクスで設定してしまったものが、今後どうなるのかということと、それからよく言われている官高底党、政高党底とも言いますが、官邸がやたらと元気であるのに比べて党がやせ細っている事態。これは小泉さんがかなり推進し、第一次安倍政権がさらに推進したこと。第一次安倍政権は官邸に政治家である補佐官をやたらと作って、それが各省の大臣と揉め事を起こして、結果的には官邸主導が上手く行かなかった。その結果、まったく動かなくなりました。これが、また安倍政権の今後のあり方を決定的に左右する。オリンピックは7年後で、2020年、7という数字は極めて悩ましい数字です。これが10だとたぶん安倍さんもそのころ総理をやっているとは思わないが、7だとやってみたいと思う数字です。

今日の話をもとめてみますと、今の自民党政権は、前の民主党政権が黙っていたものを全部発言する。やたらと民主党政権以上に有識者会議を作る、こういう状況で、つんのめるように走っている。今までの自民党政権でしたら、一人が倒れたら次が立つという派閥でして、自民党の部会もそうでした。そういう受け皿がかなり強くあったので出来たが、今回はオールスターキャストで全員が出ているため、次の受け皿がない。

最後に劣化状況というのは、基本的には受け皿がないということです。ただ前の時よりは多少先が見えるように走り始めたという点で、劣化3位まで行ったのが、劣化2位までに戻った感がある。安倍さんに戦後70年という話をしたら、戦後70年の宣言を出したいと話していたが、これが安倍流の宣言が出るとなると、世界に戦争をするような宣言になるといけないという気がしています。ご清聴有難うございました。（文責・石川直樹）

